

あの頃は・・・

創立10周年から今まで・・・

加藤 友仁

当校在職期間 昭和 58 年4月～平成4年3月
平成 22 年4月～令和2年3月
令和 2 年4月～現在

学校創立50周年、おめでとうございます。

私は現在、本校を60歳で定年退職し、その後5年間を再任用、また、その後、授業補助講師として三年間勤務させていただいています。本校には私の教員生活の中で合わせて22年間お世話になっています。

私が最初本校にお世話になったときは、大垣養護学校がちょうど10周年を迎える年でした。その時代からすでに40年が過ぎようとしているのに、時代の流れの速さと、障がい児教育の変化にとっても驚いています。

せっかくの機会なので最初の頃の本校について少し話をさせていただきたいと思います。

最初、大垣養護学校(特別支援学校)は岐阜県下で一校しかない障がいがある子どもたちの学校として起校しました。養護学校が義務化される前のモデル校的な学校でしたので、今のように学区が明確にあったわけではなく、生徒の中には飛騨地区や東濃地区の生徒たちも在籍していました。その当時は寄宿舎に100名以上の生徒がいて遠くの地域から大垣をめざして通っていました。当時はまだ土曜日が半日ある時代で、寄宿舎が完全閉舎になるのは月一回で日曜日にも舎生は寄宿舎で生活している状況でした。しかし、閉舎になると生徒は自力で、また保護者の送迎によって通学していました。遠くから生徒を送り迎えする保護者の皆さんのご苦勞に頭が下がる思いでした。特に夏場はよいのですが、冬場になると雪も降ったり、日も短かったりし本当に大変だったと思います。

また、その時代は社会の障がい者に対する理解も少なく、何とか子どもたちの味方にと保護者の方やその兄弟とも家族的な関係で接したり、いろいろな問題を真剣になって話し合ったりしたことを覚えています。特に子どもたちが学校を卒業した後、誰が子どもたちを理解したり、協力したりし、社会に出たときに安定した社会生活が送れるか、そのためには今何が必要なのかということをいろいろな先生方とも夜遅くまで何度も話し合ったことも覚えています。

話をすれば切りがありませんが、時代は変わり、年数は過ぎても皆さんの考えることは皆同じだと思います。やはりいつも思うことは学校と家庭(保護者の皆さん)が協力し子どもたちに当たることが一番大切なことだと思います。今のこの社会・生活・教育環境に感謝して欲しいと思います。

最後に、大垣の子どもたちの良いところは、みんなが明るく挨拶をしてくれるところです。申し訳ないのですが、私が生徒の名前を知らなくても、反対に生徒から「加藤先生おはよう!」と挨拶してくれるところです。「え~!どこで覚えてくれたのだらう」と不思議になりますが、私はとても嬉しい気持ちになります。どんな相手にとってもこんなに素晴らしいことはありません。明るく、素直に育って行って欲しいと思います。今まで多くの卒業生を送ってきましたが、どの生徒も社会の中で元気に、そして立派に頑張ってくれています。皆さんもその先輩たちを目標に頑張っていて欲しいと思います。

最後に、今後も益々大垣特別支援学校が発展されていくことを願っています。